ONKYO

3ch スピーカー内蔵 TV ラック

CB-SP1380

取扱説明書

安全上のご注意 (必ずお読みください)	2
主な特長	4
各部の名前と働き	6
設置のしかた	7
接続のしかた	9
サランネット脱着のしかた	10
スピーカーコードホルダーの使いかた	10
取り扱い上のご注意	10
主な仕様	11
修理について	裏表紙

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

安全上のご注意
安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた

間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意

感電注意

⦸記号は「〜してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

●記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

⚠警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐにアンプの電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにアンプの電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■放熱を妨げない

禁止

通風孔が完全にふさがれてしまうようなサイズの製品を置かないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。

■水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

使用上のご注意

■長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。
特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

⚠ 注意

接続、設置に関するご注意

■不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■本機の天板に 80kg 以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗ったりしないでください。

■ガラスに傷をつけたり、衝撃をあたえない

禁止

鋭利なものや、尖ったものなどで傷をつけないでください。
本機に付属のガラス板は強化ガラスですので、傷が入った状態で長時間ご使用になると傷が進行して自然に破損することがあります。傷が入った場合は、お買い上げの販売店にご相談の上、新しいガラスと交換してください。

■組み立てについて

必ずする

本機は非常に重いので、組み立ては必ず 2 人以上で行ってください。
部品と部品の間に指や手をはさんで傷つけることがありますのでご注意ください。
ネジ止めの箇所はしっかりと締めてください。不十分な組み立て方をすると、強度が保てず、機器が倒れたりして故障やけがの原因になることがあります。

■配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

使用上のご注意

■音量に注意する

必ずする

突然大きな音が出てスピーカーを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。

■キャッシュカード、フロッピーディスクなど磁気を利用した製品を近づけない

禁止

磁気の影響でキャッシュカードやフロッピーディスクが使えなくなったりデータが消失することがあります。

移動時のご注意

■移動時は接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

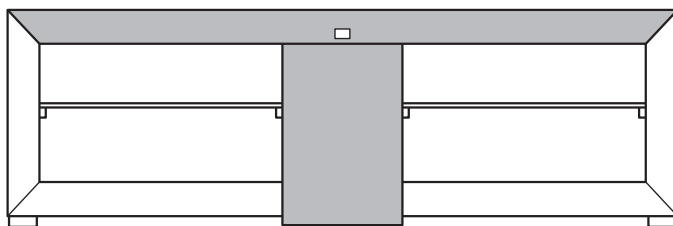
コードが傷つき火災や感電の原因となります。

■移動させる場合は、ゆっくり動かす

必ずする

段差があるときは、落下や転倒してけがの原因となりますので、持ち上げて移動させてください。
サランネット部を持って移動させないでください。

主な特長

本機はホームシアター用フロント3ch（チャンネル）スピーカーを搭載した、高機能TVラックです。高い収納性とインテリア性を兼ねそなえていますので、リビングですっきり美しく本格的なホームシアターを楽しんでいただけます。

正面図（サランネットを着けたところ）

本格ホームシアタースピーカー搭載

- ■ ホームシアターに最適なフロント3ch（チャンネル）スピーカーシステム（フロントL/R、センタースピーカー）を搭載
- ■ すべてのスピーカーユニットを同一線上（水平）に配置することにより、映画館と同様の自然な音の移動感を実現（特許出願済）
- ■ 単品スピーカーに匹敵する総合7.3リットルの大容量キャビネット
- ■ 50kHzまでの超高域再生が可能な2.5cmバランスドームツィーター
- ■ 新開発30cm×4cmトラック型ウーファー

高い収納性

- ■ 別売のホームシアター用オプションサブウーファー収納対応
- ■ フルサイズAV機器4台を収納対応

高いインテリア性

- ■ ピアノ塗装仕上げを天板部および前面化粧板に採用

その他

- ■ ケーブル類をスッキリまとめるスピーカーコードホルダー付属

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは、製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

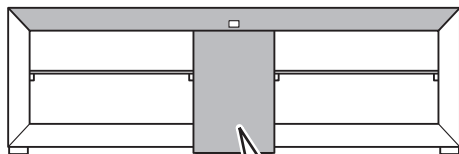
音のエチケット

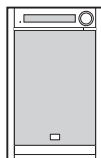
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

主な特長

本機にアンプは搭載していません！

本機にはアンプを搭載していませんので、本機とテレビなどの組み合わせだけでは、音声は出力されません。本機でホームシアターを楽しむには、DHT-9HDなどのホームシアター用オプション、またはAVアンプやAVセンターが必要です。

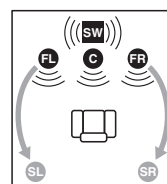
● DHT-9HDなどのホームシアター用オプション

DHT-9HDは、本機のセンターボックスに収納してご使用いただけます。コンパクトなサブウーファーボディに6chアンプを搭載していますので、本機との組み合わせで、手軽にホームシアターを楽しんでいただけます。

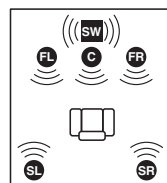
**3.1chバーチャル再生が可能な
6chアンプ内蔵サブウーファー
DHT-9HD（2008年4月現在）**

フロント3chだけで5台のスピーカーによるサラウンド効果を再現する「Theater-Dimensional（シアターディメンショナル）」機能を搭載しています。後方にスピーカーを設置することなく、本機（CB-SP1380）に搭載する3chスピーカーだけで本格的なホームシアターが楽しめます。また、後方に設置するサラウンドスピーカーを2台追加して、5.1ch環境にシステムアップすることもできます。

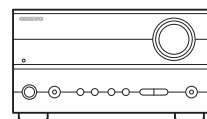
！ヒント　各スピーカーの役割

- 左/右スピーカー（FL/FR）：音楽や効果音などを再生
- センタースピーカー（C）：セリフやヴォーカルを主に再生
- 左/右サラウンドスピーカー(SL/SR)：後方の包み込むような音場を再生
- サブウーファー（SW）：重低音のみを再生

3.1chバーチャル再生

本機（CB-SP1380）に搭載する左/右フロントスピーカー、センタースピーカーの3chとDHT-9HDのサブウーファー（0.1chと記載します）をあわせた3.1ch構成です。左/右サラウンドスピーカーは設置せず、仮想スピーカーによりバーチャル再生します。

5.1chサラウンド

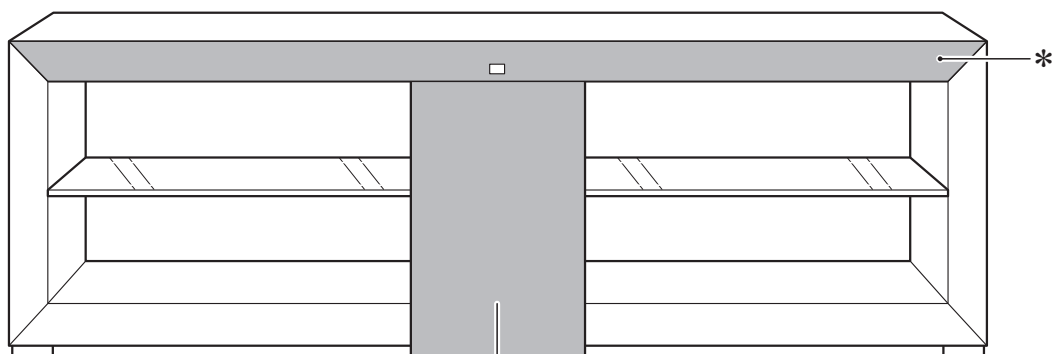
本機（CB-SP1380）に搭載する左/右フロントスピーカー、センタースピーカーの3chとDHT-9HD のサブウーファー（0.1chと記載します）、さらに左/右サラウンドスピーカーの2chを後方に増設した5.1ch構成です。ホームシアターを楽しむ基本的な構成といえます。

●SA-205HDなどのAVセンターやAVアンプ

5.1chAVセンター　SA-205HD（2008年5月現在）

横幅205mmのコンパクトなボディに、5.1chアンプと「Theater-Dimensional（シアターディメンショナル）」機能を搭載しています。

- **その他のAVセンターやAVアンプ、単品スピーカーとの組み合わせでもご使用いただけます。**
  本機（CB-SP1380）の3chスピーカーを左/右フロントスピーカー、センタースピーカーとしてご使用いただけます。

- 詳しくは、各製品の取扱説明書をご覧ください。
- Theater-Dimensionalの名称、ロゴはオンキヨー（株）の登録商標です。
- 本機のスピーカーの定格インピーダンスは6Ωです。接続するアンプはそれに適したものをご使用ください。

各部の名前と働き

■ 正面図

＊天板部のサランネットは脱着できません。

センターボックス

センターボックスのサランネットをはずして
別売のホームシアター用オプション（DHT-9HDなど）
を収納することができます。（5ページ参照）

■ 背面図

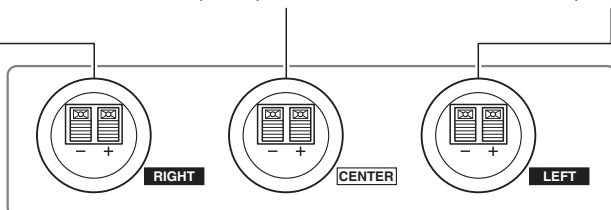
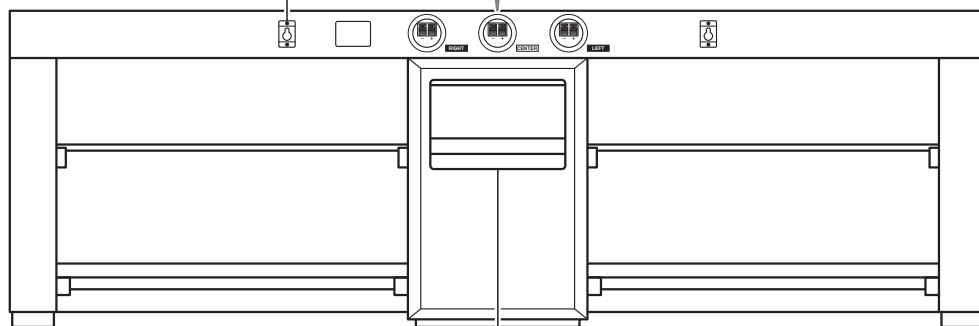
右スピーカー端子
(RIGHT⊕/⊖)（ライト）

アンプの右スピーカー端子
(⊕/⊖)と接続します。

センタースピーカー端子
(CENTER⊕/⊖)（センター）

アンプのセンタースピーカー端子
(⊕/⊖)と接続します。

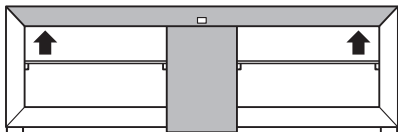
左スピーカー端子
(LEFT⊕/⊖)（レフト）

アンプの左スピーカー端子
(⊕/⊖)と接続します。

ディスプレイ転倒防止用
ひも取り付け金具（左右2箇所）

接続用開口部

本機のセンターボックスに収納した別売
のホームシアター用オプション(DHT-9HDなど)と、
本機を接続するための開口部です。

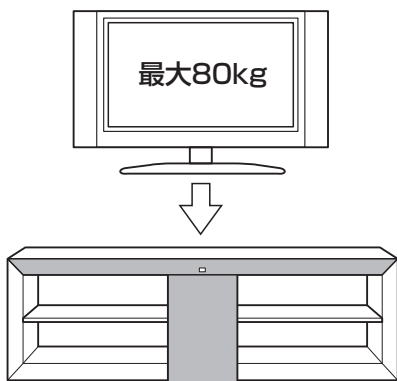
設置のしかた

■ 移動するときのご注意

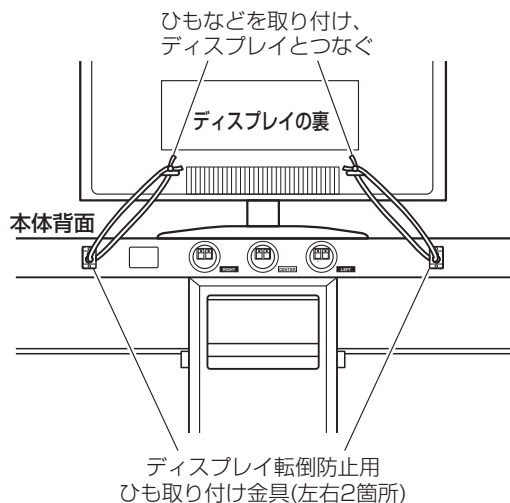
本機を移動するときは、収納している機器をすべて取り出してください。
必ず2人以上上で下図の矢印部に手をかけて、持ち上げて移動してください。

- ガラス棚や底板は固定されていませんので、持たないでください。はずれたり、落下したりして危険です。
- 移動は持ち上げて行ってください。引きずると床に傷がつく恐れがあります。
- サランネットに大きな力を加えると、サランネットが壊れることがあります。

■ テレビの設置について

- 天板には 80kg を超える機器は設置しないでください。
- 設置作業は 2 人以上で行い、指詰めや腰をいためないようにしてください。
- 設置は不安定な場所を避け、壁際で安定した場所に設置してください。

1. ご使用になるテレビを、本機の天板の中央に設置してください。
2. テレビの設置する位置を調整する際は、テレビを持ち上げて行ってください。引きずると天板を傷つけることがあります。

テレビの底面や薄型テレビの台座が、天板よりはみ出したり、片寄った載せかたをしないようにしてください。倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。

■ 転倒防止について

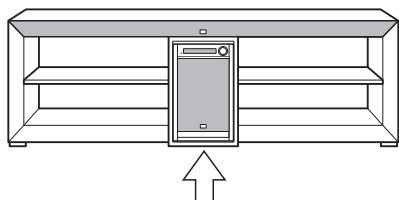
本体背面にディスプレイ転倒防止用のひも取り付け金具が左右2箇所にあります。この金具にじょうぶなひもなどを取り付け、ディスプレイ本体とつないでください。より安全な設置をすることができます。

！ヒント

ディスプレイのゴム足などの跡が天面に残ることがあります。あらかじめご承知おきください。

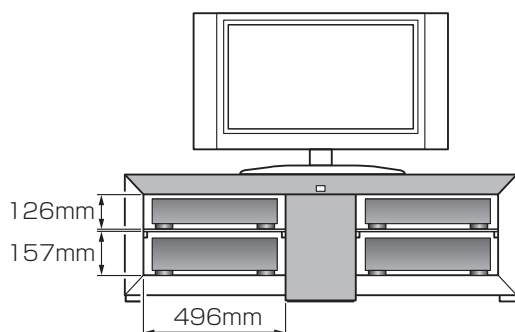
設置のしかた

■ アンプ内蔵サブウーファーの設置について

別売のホームシアター用オプション（DHT-9HDなど）を、本機のセンターボックスに設置することができます。設置や接続の前に、各機器の取扱説明書をよくお読みください。

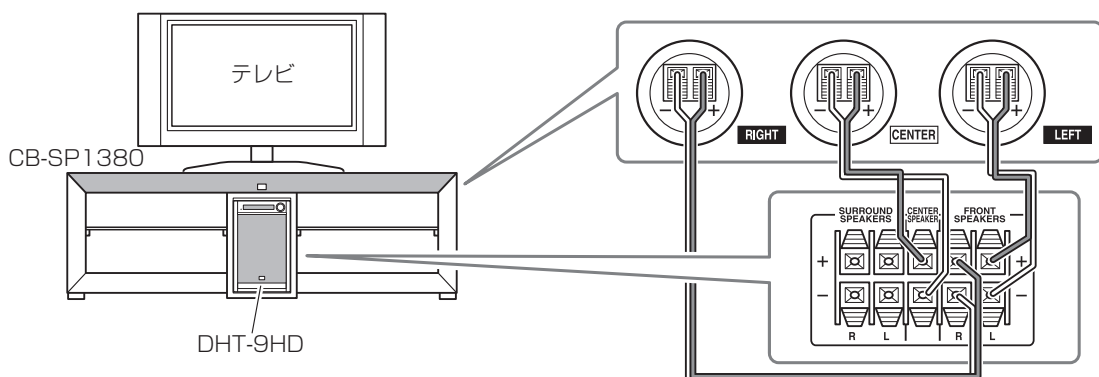
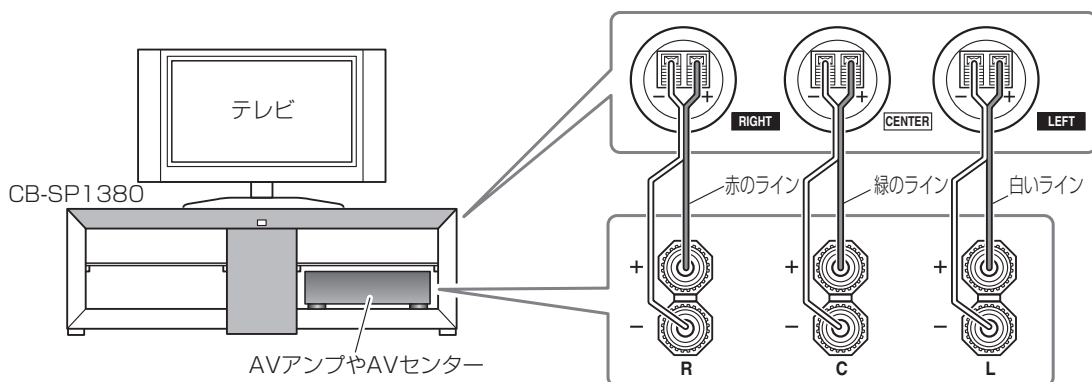
1. センターボックスの裏側には接続用の開口部がありますので、あらかじめ設置するアンプ内蔵サブウーファーの電源ケーブルを本機の背面に通しておきます。
2. アンプ内蔵サブウーファーをサランネットを取りはずした本機のセンターボックスに設置します。DHT-9HD底面とセンターボックス底面の間に、電源コードをはさまないように注意してください。

■ 収納機器の設置について

- 上段のガラス棚には左右各 15kg、下段の棚には左右各 25kg を超える機器は設置しないでください。総耐荷重は 120kg です。

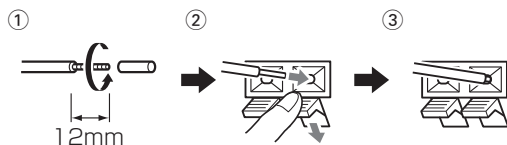
1. 本機は 4 台のフルサイズ AV 機器を収納することができます。ＤＶＤレコーダー、ビデオデッキなど、本機に収納する機器を棚に載せてください。
2. 収納機器とテレビの配線処理を行ってください。接続については各機器の取扱説明書をよくお読みください。

各機器の放熱を妨げないようにしてください。各機器の取扱説明書をよくお読みいただき、機器の天面や背面から十分なすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

接続のしかた

アンプ内蔵サブウーファーと接続する

別売のホームシアター用オプション（DHT-9HDなど）は、本機のセンターボックスに設置して使用することができます。

AVアンプやAVセンターのスピーカー端子と接続する

■ スピーカーコードの接続のしかた

- スピーカーコードを接続するときは、アンプなど接続する機器の音量は最小にし、電源プラグを抜いた状態で行ってください。
- 本製品のスピーカーの定格インピーダンスは6Ωです。接続するアンプはそれに適したものをご使用ください。
  スピーカー端子「RIGHT（ライト）」は、アンプのR(右)スピーカー端子に接続してください。同様に、「CENTER（センター）」はセンタースピーカー端子(C)に、「LEFT（レフト）」はL(左)端子に接続してください。
- 本製品のスピーカー端子のプラス⊕とアンプのプラス⊕を、スピーカー端子のマイナス⊖とアンプのマイナス⊖を接続します。付属のスピーカーコードに色のついたラインが入っている方をプラス⊕側に接続してください。
- 組み合わせや配線などによって付属のスピーカーコードが長すぎる場合は、ニッパーなどで適当な長さに切ってお使いください。また、先端のビニールカバーをはずすときは、しん線部を傷つけないようにご注意ください。

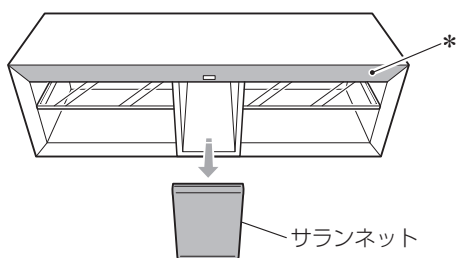
① ビニールカバーをはずし、スピーカーコードのしん線部をよじる
② スピーカ端子のレバーを押しながら、コードの先端を差し込みます。指を離すとレバーが戻ります。
③ スピーカーコードを軽く引っ張ってみて確実に接続されているかどうか確認してください。

- スピーカーコードのしん線はよくよじり、確実に端子に接続してください。
- スピーカーコードの⊕、⊖がショート（接触）していないか十分に確認してください。ショートさせるとアンプが故障する場合があります。
- スピーカーコードの⊕、⊖（極性）、L（左）、C(センター)、R（右）を間違えないでください。極性を間違えると、低音感が損なわれて音の定位が定まらなくなります。

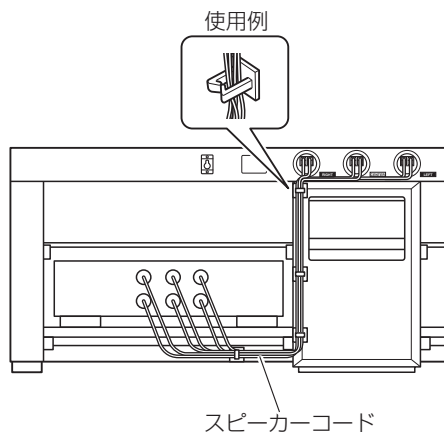
サランネット脱着のしかた

本体のセンターボックスにはサランネットが付いています。サランネットを取り付けたり、はずしたりするときは次のように行ってください。

1. 両手でサランネットを持ちます。
2. サランネット上部をゆっくりと手前に引きながら順に取り付け部をはずします。
3. 取り付けるときは、サランネットの四隅にあるピンを本体のサランネット取り付けホルダーに合わせて押し込みます。

- センターボックスのサランネットについては、組立説明書の「組み立ての手順」をご参照ください。

＊ 天板部のサランネットは脱着できません。

スピーカーコードホルダーの使いかた

本製品には、背面のスピーカーコードをまとめるためのスピーカーコードホルダーが4個付属しています。
スピーカーコードホルダーには両面テープがついています。AVアンプやAVセンターを棚に設置してご使用になる際には、適当な位置に貼り付けてご使用ください。

取り扱い上のご注意

■ ブラウン管使用のテレビやパソコンとの近接使用について

一般にテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、地磁気の影響さえ受けるほどデリケートなものですので、普通のスピーカーを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。
本製品は（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、テレビなどとの近接使用が可能です。ただし、設置のしかたによっては色むらが生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15分～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残る場合はテレビの位置を変えてみてください。また、近くに磁石など磁気を発生するものがあると本機との相互作用により、テレビに色むらが発生する場合がありますので設置にご注意ください。

■ お手入れについて

製品の表面は時々柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤をうすめた液に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものは、ご使用にならないでください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。
スピーカーのサランネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るかブラシをかけるとよくほこりを取ることができます。

■ 取り扱い上のご注意

本製品は通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故のおそれがありますのでご注意ください。

① FMチューナーが正しく受信していないときのノイズ
② 発振器や電子楽器等の高い周波数成分の音
③ オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
④ マイク使用時のハウリング
⑤ テープレコーダーを早送りしたときの音
⑥ アンプが発振しているとき
⑦ ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音

主な仕様

■ フロントスピーカー / センタースピーカーシステム

形式	:	2 ウェイ密閉型
定格インピーダンス	:	6 Ω
最大入力	:	40W
定格感度レベル	:	78dB/W/m
定格周波数範囲	:	50Hz ～ 50kHz
クロスオーバー周波数	:	7kHz
キャビネット内容積	:	7.3ℓ
使用スピーカー	:	ウーファー 30cm × 4cm トラック型 ツィーター 2.5cm バランスドーム型
ターミナル	:	カラー対応プッシュ式
その他	:	防磁設計（JEITA）

■ 総合

外形寸法	:	組立完成後全体寸法 1380（幅）× 447（高さ）× 436（奥行き）mm （サランネット、ひも取り付け用金具含む）
質量	:	組立完成品 42kg
収納部内寸法	:	ガラス棚部（左右）: 496（幅）× 126（高さ）× 402（奥行き）mm 底板部（左右）: 496（幅）× 157（高さ）× 414（奥行き）mm （上部左右にガラス固定部突起あり：左右方向 12mm、上下方向 21mm） センターボックス部：215（幅）× 340（高さ）× 390（奥行き）mm
各部の耐荷重	:	天板部：80kg ガラス棚：左右各 15kg 底板部：左右各 25kg 収納ボックス部：12kg
総耐荷重	:	120kg

■ 主要部品

〔 〕内の数字は数量を表しています。

スピーカーボックス（左右脚部およびサランネット付き）〔1〕
センターボックス（サランネット付き）〔1〕
底板〔左右各 1〕
ガラス棚〔2〕
飾り板（左右共通）〔2〕
組み立て用ネジ（M5 × 30）〔3〕

■ 付属品

〔 〕内の数字は数量を表しています。

スピーカーコード（緑、赤、白）1.0 m〔各 1〕
スピーカーコードホルダー〔4〕
組立説明書〔1〕
取扱説明書（本書）〔1〕
保証書〔1〕
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内〔1〕
ユーザー登録カード〔1〕

仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お 名 前
- ▶ お 電 話 番 号
- ▶ ご 住 所
- ▶ 製 品 名　CB-SP1380
- ▶ で き る だ け 詳 し い 故 障 状 況

■ オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口·修理窓口のご案内」をご覧ください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　年　　月　　日
ご購入店名：
Tel.　　（　　）
メモ：

ONKYO®
オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター
☎050-3161-9555　受付時間　10：00〜18：00
（土·日·祝日·弊社の定める休業日を除きます）

G0803-1

SN 29344785